

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 15 章 パート 2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

このように、天国の中から見ること、私はようやく理解し始めました。

「そうだ！神よ。あなたの御怒りは窮みに達します。」(黙示録 15:1)

地上では、彼らは敗者、負け犬だと思われていましたが、ここ天国では、彼らは海の上に立っています。

なぜなら、獣に打ち勝ったから。

勝利がある！

天国！

方程式に天国を入れないと、天国に重点を置いていないと、クリスチャンとしての、聖書に基づいた信仰生活は全く成り立ちません。

あなた自身の患難の時、15章を理解してここに留まらないと、「どうして神は私の思うようにしてくれないのか。」「どうして私が思うように裁いてくれないのか。」と誤ってしまいます。

15章は宝石のように貴重で重要な章です。

天国では彼らが、打ち勝った者、水の上を歩く者となるという事を、私も今は理解できます。

天国。天国。

天国なしでは、霊的生活の中で神について間違った解釈をして、誤った道に進んでしまいます。

全ての方程式の中に天国を、永遠の大きな図を入れて下さい。

それには黙示録以外ありません。

私の祈りは第一に、イエス・キリストが天の御座に着いて、全てを支配していることを皆さんが見るように。

第二は、天国が全てであると、皆さんが理解するように。

そのために牧師ヨハネは、聖霊に導かれて黙示録を書いたのです。

大変な困難の中にいるクリスチャンに伝えるために。

ヨハネは、「もっと信仰を持つんだ!!!」「突き進め!!!」「打ち破れ!!!」「頑張れ!!!」「手離せ!!!」などとは全く言っていません。

彼はもっと大きな図…天国を見せました。

次に 3 節で彼らはガラスの海に立って、

彼らは、神のしもべモーセの歌と小羊の歌とを歌って言った。

「あなたのみわざは偉大であり、驚くべきものです。主よ。万物の支配者である神よ。

あなたの道は正しく、真実です。もろもろの民の王よ。」(黙示録 15:3)

皆さんもこの歌を歌います。

私たちも天国に行けば、永遠の目で見てこう言うのです。

「主よ。あなたがなされたことは、全て本当に真実で、真に正しい。」

「主よ。だれかあなたを恐れず、御名をほめたたえない者があるでしょうか。

ただあなただけが、聖なる方です。

すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。

あなたの正しいさばきが、明らかにされたからです。」(黙示録 15:4)

これは、患難から抜け出て天国にいる人たち。

「あなたの正しい裁きが、明らかにされたからです。今わかりました！

今なら理解できます！正義と真実。その通りです。主よ。あなたは素晴らしい！」

彼らはモーセの歌を歌いました。

聖書の中で一番初めの歌。

それから小羊の歌、聖書の中の最後の歌です。

出エジプト記 14 章、紅海が分かれた話を知っていますね。

エジプトを出たモーセ率いる 300 万人の民は、紅海の方に引き返します。

追い詰められた彼らが目を上げると、後ろからはパロとその軍勢が迫って来ました。

その時イスラエルの民は抗議して、

「モーセよ！我々を畏にはめて、何ということをしてくれるのか！」

この 300 万人のうち誰一人として、神がこれから何をするのか知りませんでした。

誰も想像すらできなかった事、全く予期しなかった事、全く聞いたこともなく、予想もつかない事。

紅海を分けた！

常識がぶっ飛びます。

神は、私やあなたの患難の最中にも、これらの子供たちや黙示録 6 章から 19 章の患難の中にいる人々

のような、もうこれで一卷の終わりという時、全く思いもしない、期待もしていない方法で救い出すのです。

紅海が分かれた時、モーセとイスラエル人は全員で歌いました。

「主に向かって私は歌おう。主は輝かしくも勝利を収められ、馬と乗り手とを海の中に投げ込まれたゆえに。」(出エジプト記 15:1)

モーセの歌、聖書の中の最初の歌は紅海で歌われ、小羊の歌、最後の歌はガラスの海で歌われます。黙示録 5 章に小羊の歌がありますから、後で調べてみてください。

モーセの歌は救出を、小羊の歌は携挙を扱っています。

モーセの歌でエジプトから救い出され、小羊の歌で天国に入れられる。

面白い対比ですね。

ポイントは、彼らが最初と最後の歌を歌っている点。

旧約聖書と新約聖書。

彼らは一緒に歌っています。

ここで、何が起こるか見て下さい。

このモーセの歌、小羊の歌を歌いながら、彼らは言います。

「すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。」(黙示録 15:4)

これはどういう意味でしょうか。

預言を愛する皆さん、よく聞いて下さい。

もう一度、旧約聖書の最後から 2 番目の書、ゼカリヤ書を開きましょう。

大患難時代の最後に起こるハルマゲドンの戦いと呼ばれる戦争のことが、ゼカリヤ書 14 章に書かれています。

主は、エルサレムを攻めに来るすべての国々の民にこの災害を加えられる。

彼らの肉をまだ足で立っているうちに腐らせる。

彼らの目はまぶたの中で腐り、彼らの舌は口の中で腐る。(ゼカリヤ書 14:12)

また 12 章では、エルサレムの外で起こるこの戦争について、驚くほど詳細に記されています。

聖書学者たちは、これは何のことなのかと考えてきました。

皆さん、これは何を意味しますか？

今ではこれが核放射線、具体的には中性子爆弾による被害である事が分かりました。

それは、物理的には殆どダメージを与えない核爆発で、広島や長崎とは全く異なります。

建物はほぼ無傷の状態が残りますが、おびただしい量の放射線を放出し、それによって全ての生物はそこで殺されてしまうのです。

これが計画通り人に放たれると、肌は腐敗し、目は瞼の中で溶け落ち、舌は口の中で巻き上がる。

ヘブル語ではそのまま文字通りに書かれています。

そしてここに注目して下さい。

核被害が起こり、戦争が終わった後に、

エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、**仮庵の祭りを祝うために上って来る。(ゼカリヤ書 14:16)**

ユダヤ人が歴代祝ってきた祭り。

9月－10月の秋の季節にエルサレムに上り、一週間に亘って祝う仮庵の祭りが再び行われると言うのです。

仮庵の祭りとは、神がユダヤ人にどのようにして荒野を切り抜けさせ、彼らを荒野で養ったかを記念するもので、エルサレムで7日間仮庵住まいをします。

そのように、主が戻って来てハルマゲドンの戦いが終わると、主はエルサレムに入って聖なる都の中に御座を置き、それから千年の間統治します。

これが、千年王国です。

それで、主は何と言っていますか？

「全ての民はみな、仮庵の祭りを祝うためにエルサレムに上って来る。」

全ての人々が招かれ、エルサレムに来て、主がどのように導き出されたか、と言ってもエジプトや荒野からではなく、私たちが住むこの世からどうやって救い出されたかを言われ、私たちがそこにいて主を賛美しています。

これは実際に起こること、実現することです。

私たちは主と共に世界を治め、人々が主を礼拝するために、全世界からエルサレムにやって来るのを見ます。

全ての人々が招かれています。

**生き残った者はみな、上って来る。(ゼカリヤ書 14:16)**

「すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。」(黙示録 15:4)

でも、行かなくても、いい。

主は、「来なくても、いい。だがその代わりに、あなたは渴き切る。」

**地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。」(ゼカリヤ書 14:17)**

「嫌ならエルサレムに来て礼拝しなくてもいい。強制はしない。しかし、来ないと翌年は悲惨な状況になる。干ばつ、僅かしかない実り、限られた収穫、渇水…」

主は今日の私たちにも、同じことを言っています。

「来なさい。共に食事をしよう。」「わたしを礼拝しなさい。」

でも私たちは、言います。

「いや～、ちょっと忙しくて…」

また多くの人々が、

「他にすることがあるんだ。」

「礼拝には行かなくても大丈夫。」

「礼拝なら家で一人でだってできる。コマーシャルの間に。」とか何とか。

別に行かなくても、いい。

でも、主と共に長年歩んで来た者として言える事は、私は、行かないと、ものすごく完全に渴き切ると  
いう事。

なぜなら神は、家族と呼ばれる礼拝する共同体の只中におられるから。

「来て、共に礼拝しよう！」と言う者の中に。

でも人は、「それはそうだけど、黙示録はもう聞いたことがあるから。」とか「使徒の働きはもう学んだ  
のに、なんでまた…」とか言ったりします。

昨夜、礼拝の後ここに立っていたら、感じの良いご夫婦が近づいて来られて話をしました。

ミズーリ州在住で、いつもはラジオのサーチライトを聞いているのですが、集会に参加するためにわざ  
わざ車を運転して来られたのです。

サーチライトのビデオも 150 本くらい持っていて、いつも観ているそうです。

でも、私が何より心底感動したのは、奥さんが話してくれた事でした。

「先生のお嬢さんのジェシーが、2年ほど前に天に召された時、サーチライトが始まる直前に、ラジオ  
のアナウンサーがその事を話しました。

それで、すぐにそのビデオとテープを購入して、何度も何度も観て聞いて、『これはいつか、絶対に誰  
かの役に立つだろうから保管しておこう』と思いました。

実は、ジェシーが車の事故で天に召された日から丁度 1 年後、私たちの息子が車の事故で死んだので  
す。

その時、あのビデオを取り出しました。あれは、私のためのもだったんです。

誰かのために置いておこうと思っていたのに、あれは私のためでした。」

それから色々な話をしましたが、このご夫婦は、息子さんが天に召されてまだ 1 年なのに、成熟した知  
恵に満ちた奥深いことを私に分かち合ってくれました。

最初は痛みの中にいたけれど、天国についての理解があったから、大きな図を描いていたから、心に焼  
き付けていたから、思いの中でそれが本当に現実のものになったのです。

何が言いたいのか？

「もう聞いたことがあるから」とか「前にやったから」とか何であれ、「バイブルスタディーには行か  
ない」と言う人たち。

それは、とても愚かなことです。

この先何が待ち構えているのか、私たちには分かりません。

今日のラジオで言いましたが、アサ王は賢明な王でした。

彼は、その 10 年間の平和と繁栄の時に、「主の目に正しいことだ」と言って、町の周囲に壁を築き、門  
にかんぬきを付けたのです。

**アサには、ユダの、大盾と槍を帯びる軍勢が三十万、ベニヤミンの、盾を持ち、弓を引く者が二十八万  
あって、これらすべてが勇士であった。(Ⅱ歴代誌 14:8)**

平和と繁栄の時代、全てが上手くいっているように見える時に、アサ王は言いました。「いずれ戦争が  
起こる。この時に気を緩め、力を抜くのではなく、この時を、兵を整え、城壁を築くことに使おう。」

皆さん、よく聞いて下さい。

この世は、私たちが生きているこの世は、遊び場ではなく戦場です。

たとえまだそのことを知らなくても、すぐに分かる日が来ます。

賢明な人は、何週間か、何か月か、何年か、何十年かの内に「周りに城壁を築こう。」

「要塞を築こう。」「盾と武器を準備しよう。」

「私の敵、悪魔が吠え猛る獅子のように、食い尽くすべきものを探し求めている、遅かれ早かれ困難や試練がやって来る。敵はその苦難に喰い付き、誘惑として利用して、私の信仰を崩そうとする。だから、私は完全武装して備えなきやいけない。」

千年王国時代にも「礼拝に行く必要はない」と言う人たちが出てきます。

「今は平和と繁栄の時だ！行く必要なんかないだろ。」

主は言います。

「分かった。あなたの言う通り、今は平和で繁栄している。

しかし、あなたはカサカサに渴くだろう。あなたの町には雨が降らない。」

この法則は、今の私たちにも当てはまるのです。

もう一つ、大切なことをお伝えして終わりにします。

**その後、また私は見た。天にある、あかしの幕屋の聖所が開いた。(黙示録 15:5)**

天にある、あかしの幕屋の聖所はいつ開きましたか？

彼らが礼拝した後です。

彼らが礼拝すると、その時聖所が開き、

**その聖所から、七つの災害を携えた七人の御使いが出て来た。**

**彼らは、きよい光り輝く亜麻布を着て、胸には金の帯を締めていた。(黙示録 15:6)**

**また、四つの生き物の一つが、永遠に生きておられる神の御怒りの満ちた七つの金の鉢を、七人の御使いに渡した。(黙示録 15:7)**

まるで、手術を行うチームのようです。

執刀医がやって来ます。

彼らが来ています。

御使いたちは、言うなれば手術着を着て、非常に苦い薬が入った瓶を持っていて、それは、病にひどく侵されてしまった世に対処するのに絶対必要なのです。

この徹底的な裁きは、社会の病とカナン人の文化に対するもので、神はずっと働いておられ、裁きは必ず行われます。

千年王国に向けて、世界は矯正されなければならないから。

黙示録の中では、もう、すぐそこまで迫ってきています。

**聖所は神の栄光と神の大能から立ち上る煙で満たされ、(黙示録 15:8)**

つまり聖所が開き、神の栄光が現れ、

七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその聖所に、入ることができなかった。

(黙示録 15:8)

聖所が開かれ、神の栄光、力、美を見ますが、御使いたちが災害を持って出て行き、罪、崩壊、墮落を取り除くまでは、誰一人その中に入ることはできません。

今日も、皆さんが忍耐強く聞いてくれていることに、皆さんのように一心に学ぼうとする人たちに、心から感謝します。

この 15 章を終えるにあたって、これだけは理解しておいて欲しいということをお伝えします。

天国は美しく素晴らしく、栄光、煙、威光、礼拝に満ちている所。

でも裁きが下されて、罪が取り除かれるまでは、誰一人中に入れません。

ここに法則があるのです。

それは、黙示録を書いたヨハネ牧師が言うことを聞いていた人々にも、今夜ここで黙示録を学んでいる皆さんにも当てはまります。

天国の概要を掴むことは可能です。

遠くから栄光を見ることもできます。

神学的に納得することも、靈的に証しすることもできます。

しかし、実際に中に入ることはできません。

私個人の人生に於いて必要な手術を神が執刀することを、私自身が許可しない限り、神との完全な親密さの中には、神の完全な栄光の中には入れないのです。

私の天の父は、罪を憎みます。

主は私を愛していますが、私の心にある罪は憎んでいます。

罪は、私の中にある。

私は愛されています。

でも、主はとても愛しているからこそ言うのです。

これは大切なことです。

「ジョン、国々や文化を滅ぼすもの、あなたの心や魂の知られない所に潜んでいるものをわたしは取り除きたい。だから、絶えずあなたに必要な手術を施し続けるのだ。」

主は、あなたにも言っています。

エレン・デジェネレスが同性愛者であることをカミングアウトした件で、ローマ書 1 章を通して話をした時に悲劇が起きました。

こういう話をすると多くの方が反発して、罪に対して「もはや大した問題ではない」と言います。

だからあの日、私は、純潔と義の大切さ等についてメッセージをし、御言葉を伝え、最後に立ち上がって皆さんに招きをしました。

それから下へ降りて、救われた 90 人ほどに洗礼を受け、大きな栄光に満たされました。

でもそこで起こったのです。

多くの方が気付いたと思いますが、全員に説明する必要がある事です。

その日、純潔の大切さや同性愛等の行為の危険性等をメッセージしたのですが、洗礼式で水に入って

4~5 人くらい終わった頃、手伝いをしていた愛する兄弟ボブが私を見て、妻に何か囁いて、水の中に入って来ました。

そして小さな声で「ジョン、ジョン…ファスナーが開いてるよ。」と。

悪夢ですよ。

あの日、私はオープンに語ったんです。

この場所で、皆さんの前で立ち上がって終えたんですよ。

純潔を呼び掛けて、前から後ろまで招きをして、色々やって、それから水に入って。

ボブが勇気を出して正しい事をしてくれたので、私は問題を素早く解決できました。

あの状態でいたら、本当に恥ずかしかった。

「なぜそんなことを話しているんだ？」と言いたいでしょう。

私たちはマリリン・マンソンを、エレン・デジェレネスを、色んな人を見ていますが、多分、恐らく、きっと、彼らは主によって裁かれるべきでしょう。

けれども、多分、恐らく、私たちの人生の中にも、ボタンをしっかりとかけなければならない事があるのではないですか？

主は誰かを私たちの元へ送って、或いは主ご自身が静かな小さい声で、私たちの心に語りかけているかもしれません。

「あなたの中のこれを、何とかしなければならない。」

「わたしは、エモリ人、カナン人の罪を憎んだように、あなたが隠し持っているその罪も憎んでいる。それが、あなたに悪を及ぼすからだ。

今夜、わたしはあなたを手術したい。今日、それを取り去ってしまいたい。

もう、そのことを続けて欲しくないのだ。」

あなたに巻き付く罪の一つにも、静かな小さな声が洗礼の場所で語りかけてきます。

「ジョン…ジョン…」と。

ひとつ言える事は、あなたの中の罪、それが何であっても、私たちはこう言えない限り、黙示録 15 章を真に理解することはできません。

「主よ。これから起こると預言されていることは理解できました。

あなたは聖で義なる方だから、これらが必要不可欠であることも理解できました。

主よ。私の中に、あなたが除去したい領域があるなら、妻ではなく、前後に座っている人でもなく、聖霊によって、兄弟を通して、御言葉によってどうぞ教えて下さい。

主よ。私に手術が必要なら、どうか明らかにして下さい。

天の父よ。あなたを畏れることができるように助けて下さい。

義を愛し、清さを切望するように助けて下さい。

そうすれば私は、ただ聞くだけ、遠くから眺めるだけではなく、幕屋に、聖所に入ることができます。

私の中の罪を裁いて下さい。

主よ。既に罪から贖われたことは知っています。

でも、実質的に裁いて下さい。

そうすれば、聖所に入ることができるでしょう。

遠くから眺めるだけでなく、栄光の幕屋の中に入れるでしょう。

私は自分の人生にそれを求めます。」

皆さんの人生にも同じように求めます。

まず初めに、罪に対する神の当然の怒りが下されないと、聖所には入れないのです。

あなたの神、主は、あなたの心と、あなたの子孫の心を包む皮を切り捨てて、あなたが心を尽くし、精神を尽くし、あなたの神、主を愛し、それであなたが生きるようにされる。(申命記 30:6)